

## 6 苗木の話

人にそれぞれ個性があるように、樹も様々な性質を持っています。現在、林業用種苗として販売されている苗木は、成長等の優れた優良品種をもとに作られています。

### 苗木の重要性

苗木半作という言葉があります。苗木の出来で、収穫の価値の半分が決まってしまうという意味です。林業は農業と異なり、栽培の結果が分かるのに数十年かかるため、悪い結果となった場合、致命的な打撃を受けてしまいます。そのため、いかに良い苗木を植えるかが、良い山林を造るための重要な条件になってきます。



列ごとに品種の異なるスギ見本林

### 良い苗木とは



スギの苗木

良い苗木とは、目標とする森林によって異なりますが、古くは300~400年前、山から成長等が特に優れた木を代々選抜し、良い苗木として植栽したのが造林のはじまりといわれています。選抜が繰り返された結果、地域特有の品種が生み出され、各地に有名林業地が形成されました。千葉県のサンプスギは、250年以上前から受け継がれてきたものです。

また、戦後の急激な木材需要の増加に伴い発足した林木育種事業では、成長量が大きく、材質が良好で、各種病虫害に対する抵抗性が強いものを良い苗木とし、国、各県の公的機関等が主体となって事業を推進してきました。

### 精英樹の選抜

良い苗木を生産するには、良い種子が必要です。そこで、林木育種事業の中で全国を環境の似ている地域で5つの育種基本区に区分し（図6.1）、育種基本区ごとに昭和29年から精英樹の選抜が始まりました。

精英樹とは、森林の中でとび抜けて成長が良く、しかもその他の形質が優れている個体のことです。



図6.1 育種基本区（林野庁「林木育種戦略」より）

## 千葉県採種園



木更津市下郡にあるスギの採種園

このようにして選ばれた精英樹を使って優良な形質を持つ苗木を生産するため、千葉県では昭和40年から採種園、採穂園の造成を始めました。平成3年度からは県内の苗木需要量すべてを、採種園産の種子でまかなっています。

採種園では、果樹と同様に人が作業しやすい高さに樹高を調整して管理します。また、なるべく多くの精英樹を植栽して交配させることで、遺伝的多様性を損なわないようにしています。

## 千葉県の配布種子



種子の精選作業

採種園から採取したスギ、ヒノキなどの球果は、日光にあてて乾燥させ、種子を取り出します。これらの種子は、精選作業後に県内の種苗生産者に配布され、苗畑で2～3年育苗されたのち、山行苗として販売されています。現在、千葉県ではスギ、ヒノキについては精英樹、アカマツ、クロマツについてはマツノザイセンチュウ抵抗性品種の種子を配布しています。

## 今後求められてくる苗木の性質

現在、県内人工林の81%が41年生以上と伐期をむかえており、今後更なる苗木品質の向上が求められてきています。具体的には社会問題となっている花粉症対策のための花粉の少ない品種、さらには下刈り回数が少なくすむ初期成長の早い品種、地球温暖化防止の観点から、二酸化炭素吸収能力の高い品種などです。

千葉県では、スギについては精英樹であり、かつ花粉の少ない品種を平成10年から配布しています。また、ヒノキについても平成22年度に精英樹の中から花粉の少ない品種を選抜しました。樹木の性質を把握するには非常に時間がかかります。県では時代に合った「良い苗木」を迅速に普及していくため、今後も林木育種に取り組んでいきます。